

BYD 創立 30 周年記念式典で 1,000 万台目の新エネルギー車ラインオフを発表 人工知能活用へ 1,000 億元の投資を決定し技術進歩に注力

2024年11月18日、新エネルギー車（以下：NEV）およびバッテリーの世界的なリーディングカンパニーである BYD は、深圳・汕尾特別合作区にある小桃生産基地で 1,000 万台目の NEV をラインオフし、創立 30 周年という歴史的な瞬間を迎えました。



BYD は、自動車メーカーとして世界で初めて、1,000 万台の NEV をラインオフしました。この画期的な数字は、持続可能な社会の発展に向けた BYD の揺るぎない貢献を象徴するとともに、自動車業界におけるグローバルリーダーであることを改めて示しています。最初の 500 万台の NEV の生産に 15 年を要したにもかかわらず、次の 500 万台をわずか 15 カ月で生産したという事実は、BYD が NEV に戦略的に注力し、継続的に技術を進化させていることを示しています。

創立 30 周年記念式典では、BYD 会長兼社長の王伝福が基調講演を行い、従業員わずか 20 人の小さな新興企業から、全世界に 100 万人近いスタッフを擁する多国籍企業へと目覚ましい変貌を遂げた BYD の歩みについて振り返りました。基調講演の中で王社長は、BYD の技術革新への献身が、モビリティの未来を形作る上で重要な役割を担っていることを強調しました。



1,000万台目のラインオフとなった DENZA Z9 は、ゲームサイエンス社の創設者兼 CEO であり、高い評価を得ているゲーム「黒神話：悟空」の開発者である馮驥（フェン・ジ）氏に贈呈され、王社長は、「BYD のエンジニアの魂は、当社の魂」として、BYD の成功が大胆なビジョン、絶え間ない実行力、揺るぎない忍耐力の上に築かれていることを示しました。

また、BYD の企業文化について深く伝えるため、中国の著名な金融ジャーナリストであり作家でもある秦碩の協力のもと、100人近い中上級幹部および従業員へのインタビューを実施しました。その内容は書籍『The Soul of Engineers』にまとめられています。

BYD は今後、人工知能を通じて自動車の各種システムを連携させ、自律性や利便性、安全性を向上させることを目的としたスマート技術開発に 1,000 億元（日本円で約 2 兆円）を投資し、同社が生産する自動車ラインナップ全体の包括的なアップグレードを推進する予定です。このような取り組みにより、BYD は技術進歩における最先端の地位を維持し、グローバル市場での競争力を維持しながら、人々のより良い生活の実現に尽力し続けます。今後も BYD は、エンジニアリング精神と持続可能な発展への献身によって、世界トップクラスのハイテク企業としての地位を強化してまいります。

【BYD グループとは】

BYD グループは、中国・深圳に本社を置くグローバル企業であり、環境に優しい世界を追求するためのイノベーションを提供しています。1995 年にバッテリーメーカーとして創業した BYD は現在、IT エレクトロニクス、自動車、新エネルギー、都市モビリティといった多様な領域で事業を展開しています。特に自動車分野では、現在 6 大陸、80 以上の国と地域、400 以上の都市で電気自動車を展開しており、独自の技術で開発したブレードバッテリーや e-Platform 3.0 といった最先端のテクノロジーを強みにしています。また、世界的に高まりつつある EV シフトに先駆け、新エネルギー車（EV、PHEV を含む）の生産を積極的に進めたことで、世界でもトップランナーとしての躍進を始めています。

【参考資料】本資料は BYD（中国・深圳）が 2024 年 11 月 19 日（現地時間）に発表したプレスリリースを日本語に抄訳したものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については当言語が優先します。

以上

製品に関するお問い合わせ：

BYD Auto Japan 株式会社 お問い合わせフォーム：<https://byd.co.jp/contact/>